

平成29年度
新しい共通教育について学生と教員が語り合う会
「フクトーク」報告書

平成 29 年度

新しい共通教育について学生と教員が語り合う会

「フクトーク」報告書

主催 福山大学 大学教育センター（全学共通教育部門）

●趣旨

学生が国際社会の中で社会人としてのスキルを身に付け、教養を深めて高い見識を持ち、豊かな人間性を培うために共通教育の役割は大きい。そのため、共通教育の今後の充実が望まれる。そこで、魅力的な授業や学修支援の在り方等を一緒に考え企画することを学生に呼びかけ、学修の主体者である学生の参加による企画提案型の意見交換会を開催する。

これを通じて、共通教育での学び方の工夫、学びたい科目やテーマ、学修支援のポイントをはじめ学修成果が期待できる様々な工夫やアイデアなど、魅力的な授業方法や新しい学びの創出につなげ、共通教育の充実に資する。

●日 時： 平成 29 年 12 月 13 日（水）、16 時 30 分～18 時

●場 所： 大学会館 3F、ICT 教室「CLAFT」

●テ ー マ： 地域を創造する 地域について学ぶ授業を提案してみませんか

●参加学生

経済学部 5 名、人間文化学部 6 名、工学部 10 名、生命工学部 9 名、薬学部 6 名

計 36 名（うち、学部学科選出 30 名） 計 5 グループ

●プログラム

16:30 開会の挨拶

16:33 全体説明

16:40 自己紹介（アイスブレイク）&三役決定

16:50 ディスカッションの説明

16:55 SGD（スモール・グループ・ディスカッション）

17:35 グループ発表

17:50 講評・閉会の挨拶

17:55 集合記念撮影・アンケートの実施

18:00 解散

●スタッフ

坂口教授（大学教育副センター長）、鶴崎准教授、小野准教授、中尾教授、地主准教授、劉准教授、竹盛講師、Tang 助教、秦野教授、豊村助手、日暮助手

●要旨

共通教育について学生同士が話し合い、学生たち自身が新しい授業や学修支援の在り方等を企画提案することを目的とした「フクトーク」も今年で6回となった。今回のテーマは、教養教育科目 F 群の充実を目指し、「地域を創造する」に決定した。テーマ決定後には、参加者募集に向けて過去に開催された内容などを載せた「フクトーク」のホームページも開設した。また、地域学の講義を担当している鶴崎准教授が総合司会を担当した。「フクトーク」参加学生の募集方法は、学内公募と学部学科からの選出の2段階となった。当日は5グループ分かれてSGD（スモール・グループ・ディスカッション）を行った。会場は、大学会館 ICT 教室「CLAFT」を利用した。

当日の活動の進行については、まず、坂口大学教育副センター長が開会の挨拶として趣旨説明を行ったあと、総合司会による全体説明としてSGDの意味、プロダクト、ルール、役割の説明を行った。続いてSGDに入る前に、フリートークの時間を設け、自己紹介を行うとともに、SGDを行うための司会進行係、記録係、発表者をグループ内で決めた。そして、現在行われている教養教育科目 F 群の地域学の現状等を確認し、プロダクトとして、地域について学ぶ、あるいは、地域と連携して行う授業を提案してほしい旨を告知した。

SGDは、記録係が各グループに割り当てられた3面式のホワイトボードに議論のメモを行い、それをもとにプロダクトを作成した。SGDおよびプロダクトのまとめ作業合わせて40分という限られた時間であったが、各グループとも活発に議論がなされ、プロダクトのタイトル、提案内容、セールスポイントがホワイトボードにまとめられた。グループ発表では、各グループの発表者がプロダクトの内容について説明を行った。5つのグループのプロダクトのタイトルを以下に示す。

- (ア) くわい学
- (イ) ○○プロジェクト
- (ウ) 地元企業について学ぶ
- (エ) 地域体験しよーZ
- (オ) 地元企業について学ぶ

それぞれの提案内容は、

- (ア)
 - ・くわいについての歴史を学ぶ。
 - ・くわいを作り、収穫する。
 - ・くわいを調理する。

(イ)

- ・松永の歴史、風土などを学ぶ。
- ・松永の活性化について考える。

(ウ)

- ・地元企業を見学して学ぶ。
- ・地元情報誌に魅力の伝え方を学ぶ。
- ・パンフレットを作成する。

(エ)

- ・地元農作物、水産業、地元の観光地、歴史を学ぶ。
- ・上記の様々なことを体験する中で地域を学ぶ。

(オ)

- ・地元の様々な業種の人々を招いて話を聞く。
- ・体験実習をする。

というものであった。全体的に体験、実習を通じて地域を学ぶという提案が多くを占めた。また、会終了後に行ったアンケートの「今回のフクトークで提案されたプロダクトの中で是非実現してほしいものはありますか。」では、「くわい学」と「地元企業について学ぶ」が多い票を集めた。

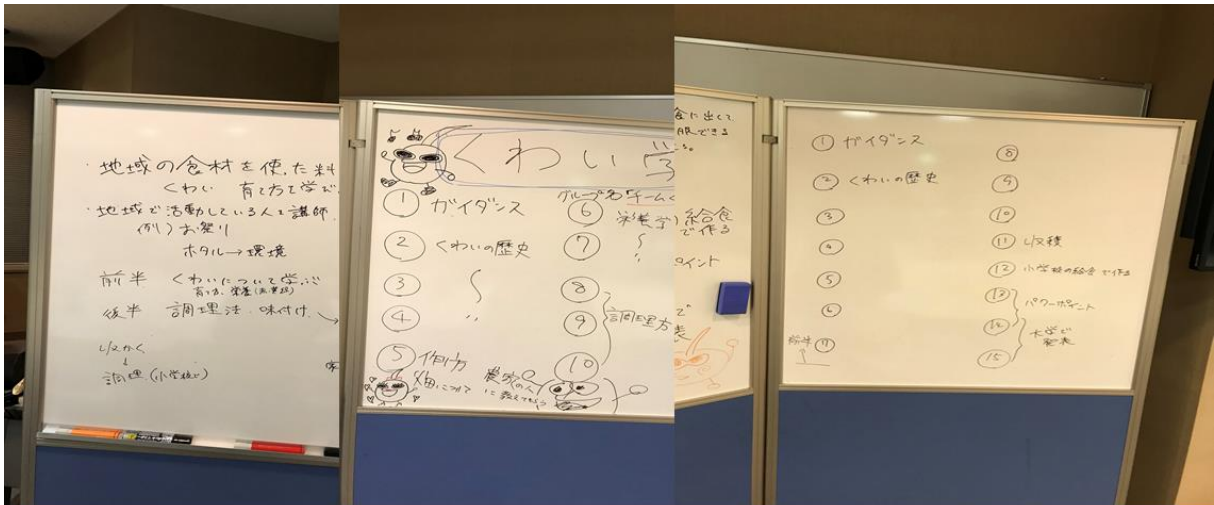
アンケート調査の結果から、参加学生のほとんどが「フクトーク」での話し合いが有意義であった、SGD への参加も良好であった、グループ人数が適切であった、学生の意見を取り入れた新しい授業などを生み出していく仕組みを求めている、といった点に賛意を示していたことが分かる。次回参加への可能性については、是非参加したい、内容によっては参加したい、要請があれば考えるを合わせれば 77%であった。また、「フクトーク」開催時期・時間については、前回同様、平日の 5 時限に行ったが、これについては、75%の学生が適切であったと回答し、ディスカッションの時間が適切であったという問いに対して、もう少し長い方が良かったという回答が 72%あった。

大学教育センターでは、今回のテーマについてさらに議論を深めるために、来年度も同じテーマで「フクトーク」を開催することを検討している。

最後に、今回も関係の多数の方々にご協力をいただいたことに、厚く御礼を申し上げたい。特に、司会を担当していただいた鶴崎准教授に心より感謝申し上げたい。

●プロダクト (ア)

タイトル : くわい学



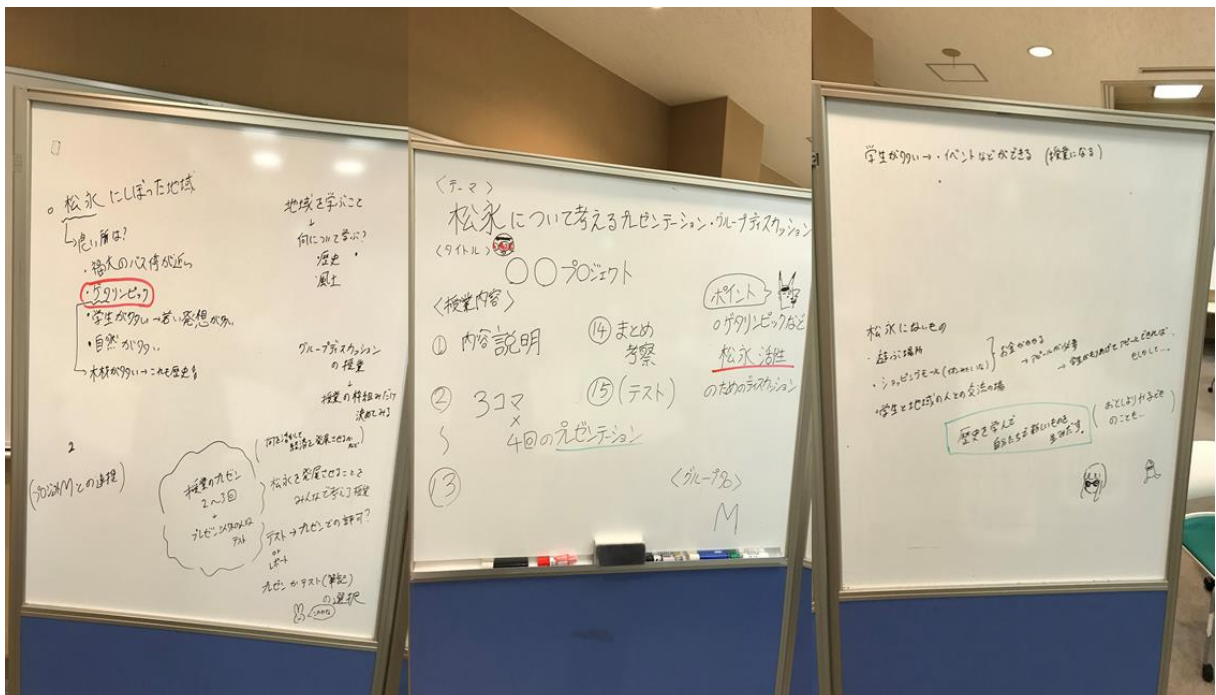
メモ(左)

まとめ

メモ(右)

●プロダクト (イ)

タイトル : ○○プロジェクト



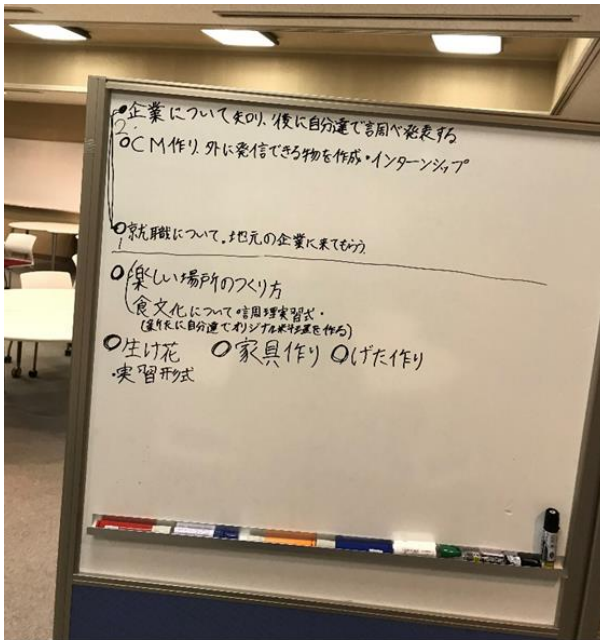
メモ(左)

まとめ

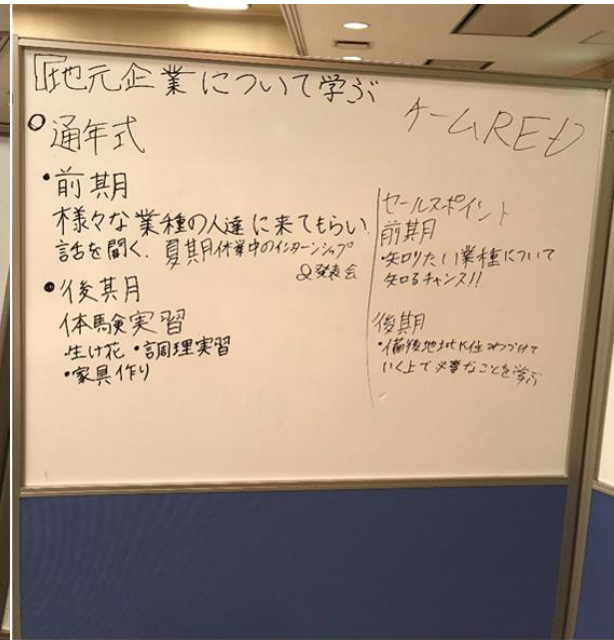
メモ(右)

●プロダクト (ウ)

タイトル : 地元企業について学ぶ



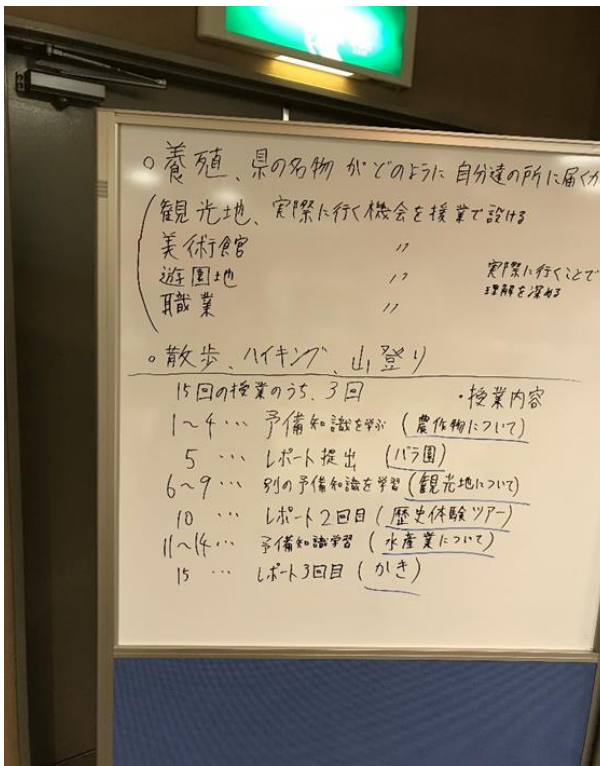
メモ(左)



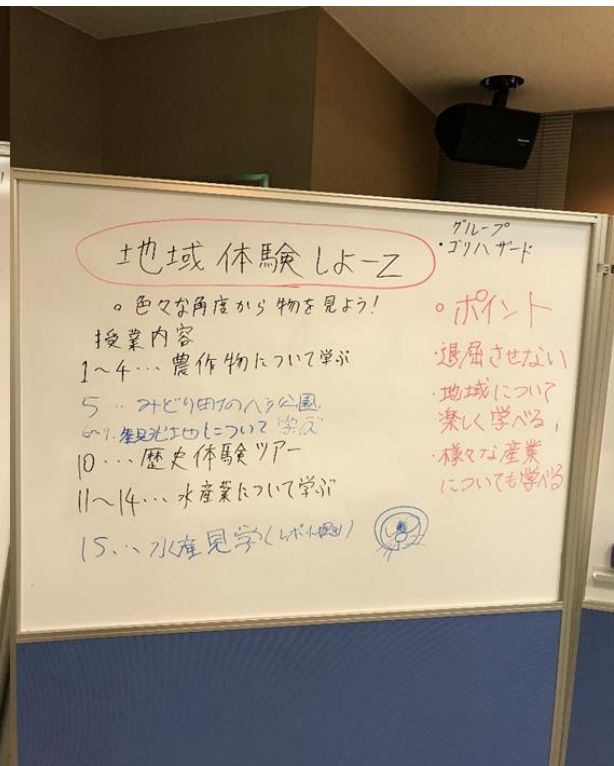
まとめ

●プロダクト (エ)

タイトル : 地域体験しよーZ



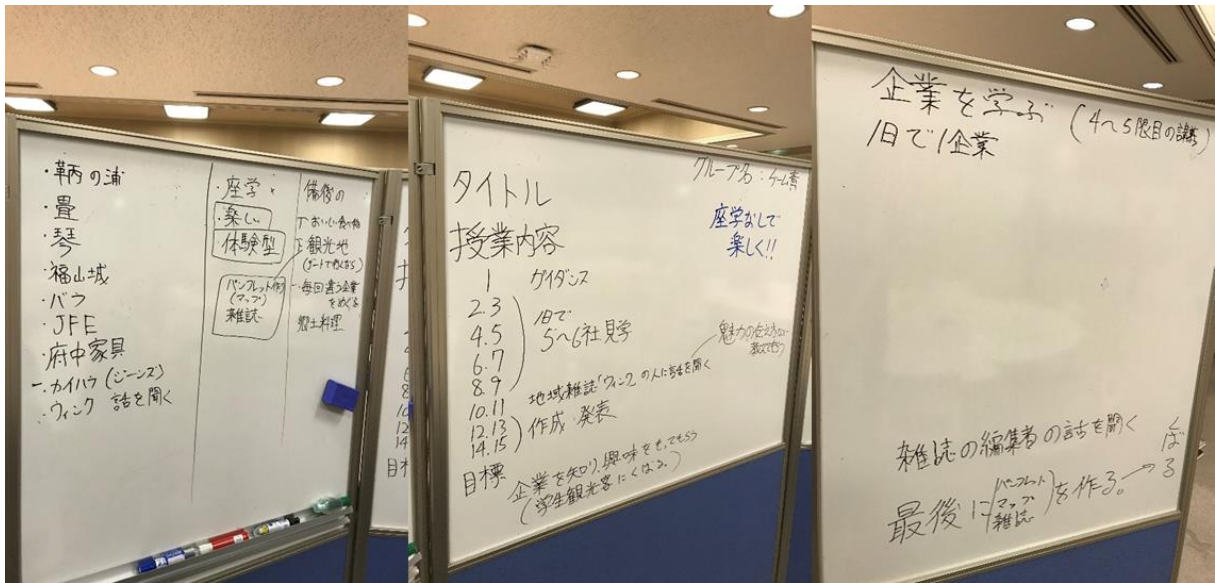
メモ(左)



まとめ

●プロダクト (オ)

タイトル : 地元企業について学ぶ



メモ(左)

まとめ

メモ(右)



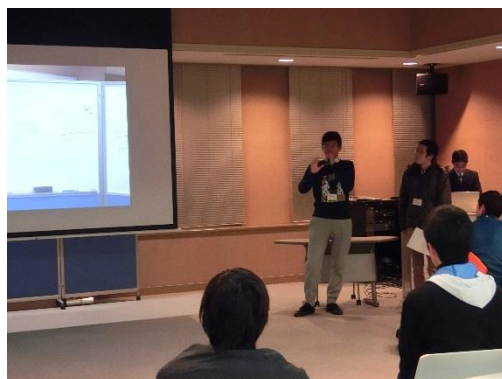
開会の挨拶



全体説明



SGD (スモール・グループ・ディスカッション)

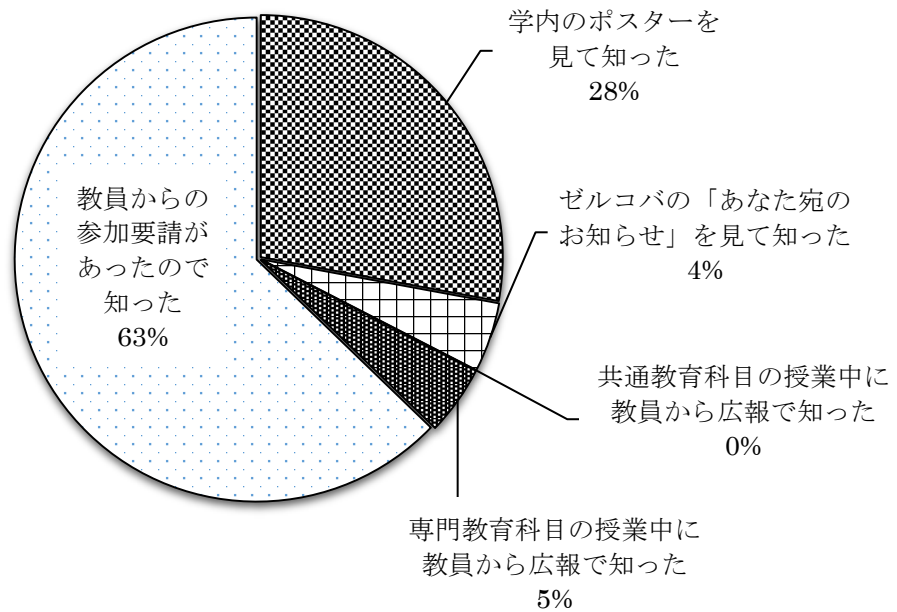


発表

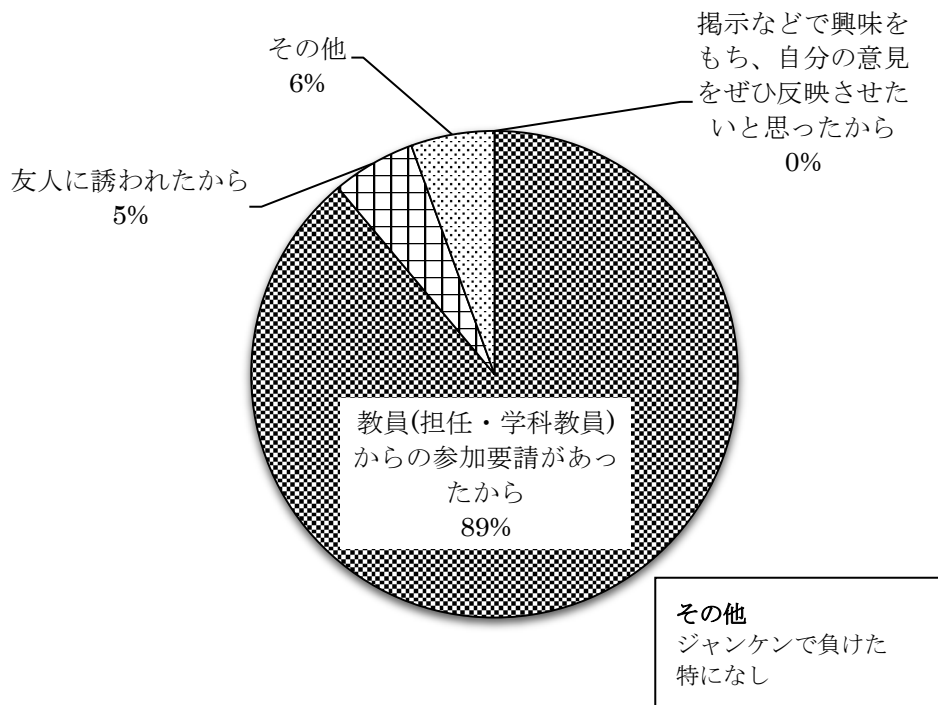
フクトーク参加者 アンケート集計結果

フクトーク参加者数 36名、 アンケート記入者数 36名

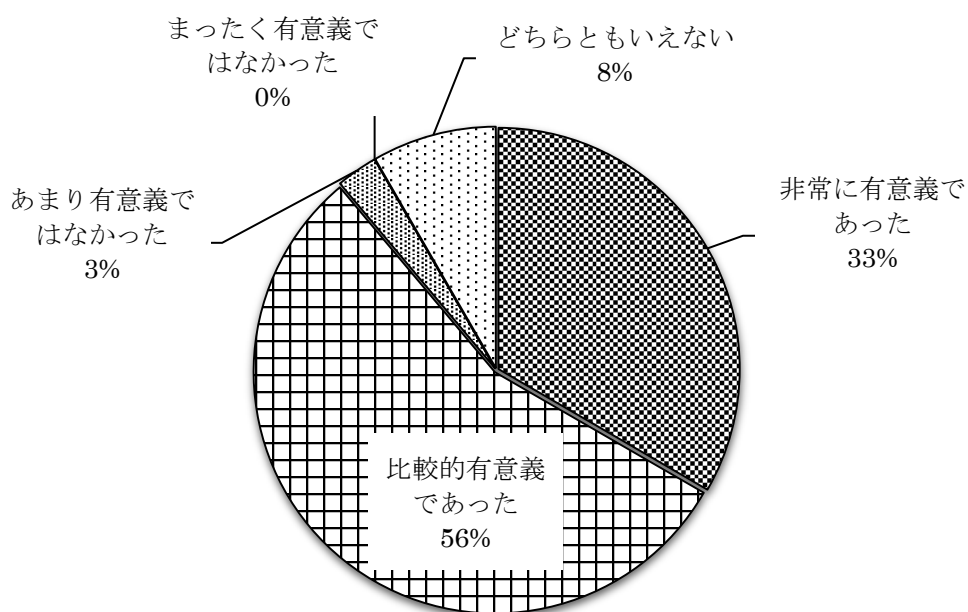
① フクトークをどのようにして知りましたか。(複数回答可)



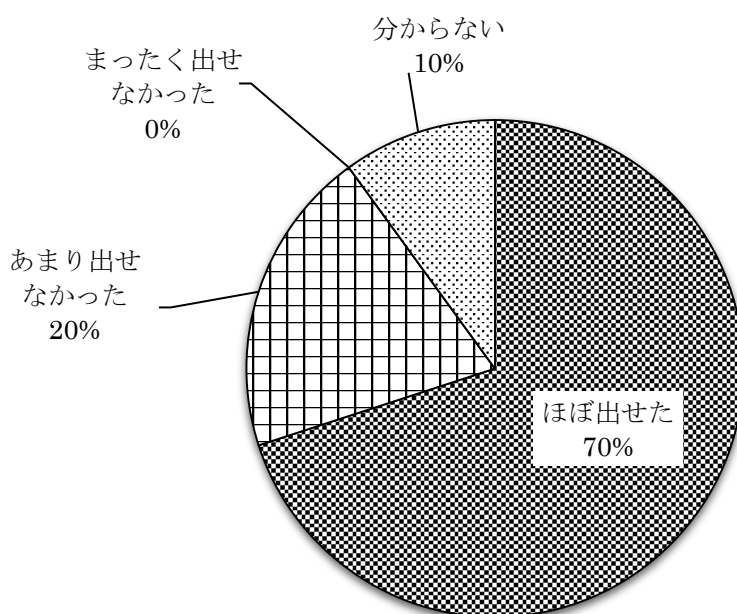
② フクトークへの参加の経緯を教えてください。



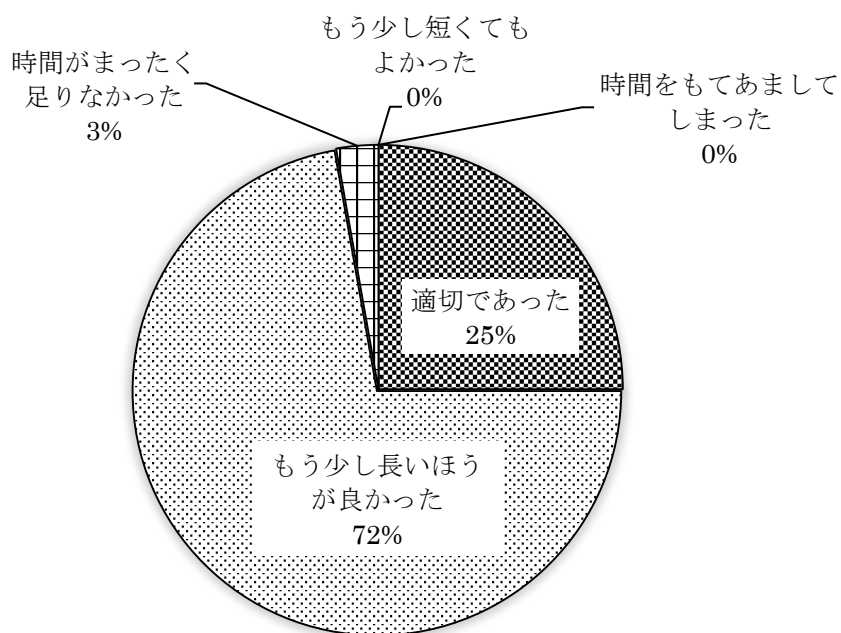
③ あなたにとって、フクトークでの話し合いは有意義でしたか。



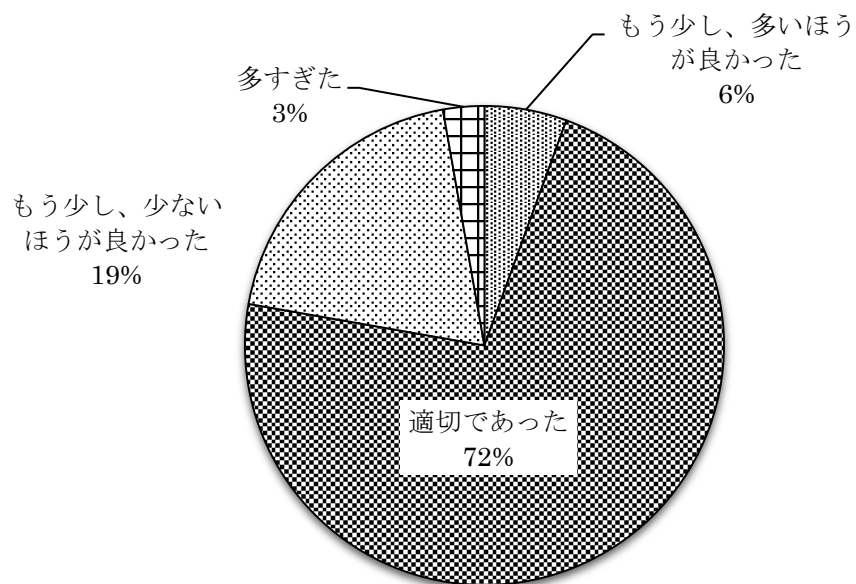
④ グループディスカッションでは、自分の意見を十分に伝えましたか。



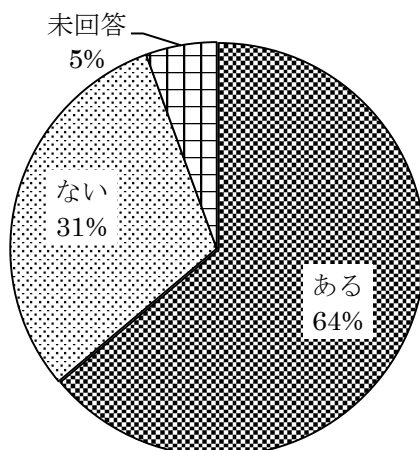
⑤ ディスカッションの時間は適切であったと思いますか。



⑥ グループディスカッションの1グループの人数は適切でしたか。

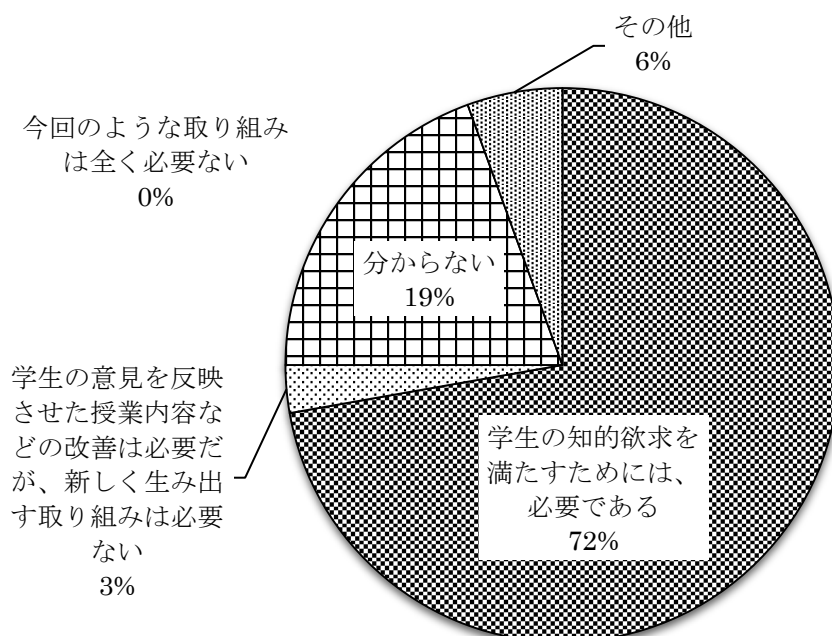


⑦ 今回のフクトークで提案されたプロダクトの中では是非実現してほしいものはありますか。

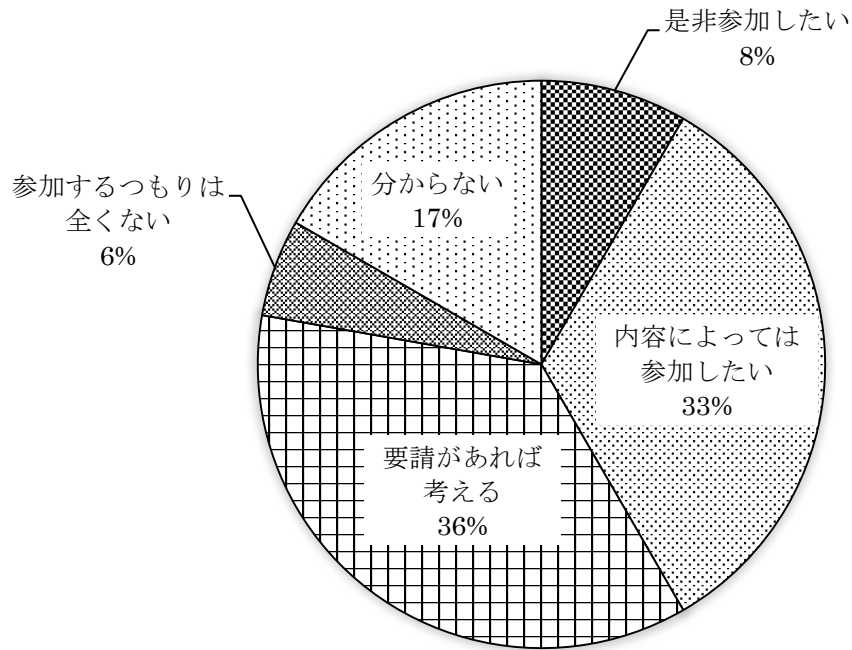


「ある」と答えた学生の提案など	人数
くわい学	7
〇〇プロジェクト	2
地域体験しよーZ	3
地元企業について学ぶ	8
全部	1

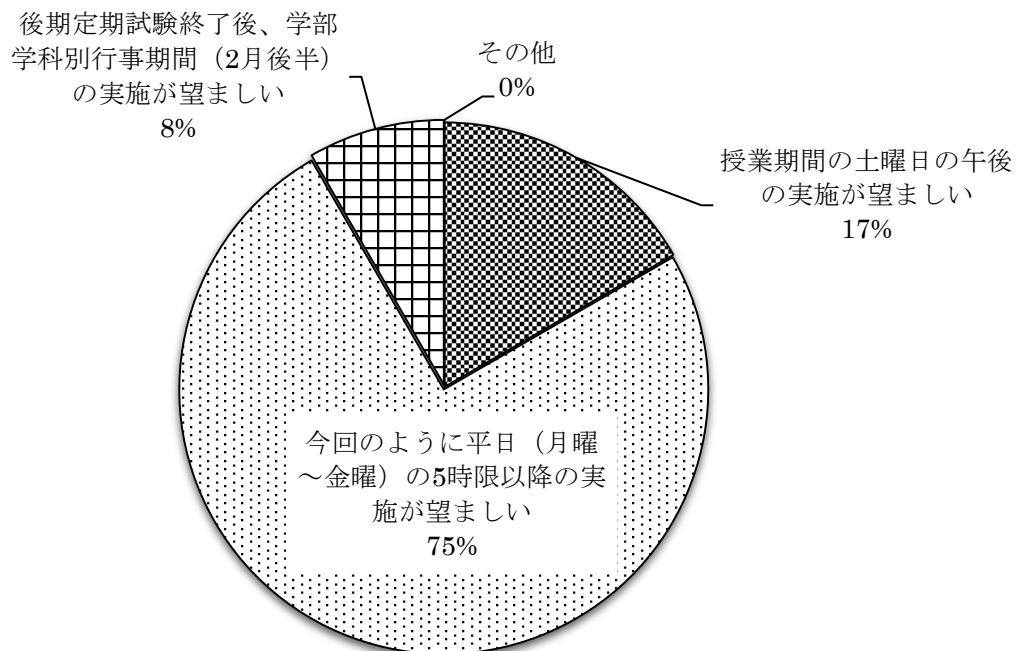
⑧ 今回、「地域を創造する授業」について議論をしましたが、学生の意見を取り入れた新しい授業などを生み出していく取り組みは、今後も必要と思いますか。



⑨ 次回のフクトークに参加したいと思いますか。



⑩ フクトークの開催時期、時間についての考えを教えてください。



⑩ フクトークに参加して、思ったこと、考えたこと、改善した方がよいことなど自由に記載してください。

- 自分はほとんど意見をまとめるだけだったが、聞いているだけでも勉強になった。そんな授業があったらいいな、と思うものがほとんどだった。
- 先生の要請で参加しましたが、初対面の人たちと話し合いができて有意義な時間でした。参加して本当に良かったです。
- 正直どれも同じような内容でみんなやりたいことは同じなんだなと思いました。
- 地域という概念の中でも、特産品、地域の会社とか知らないことはたくさんあったなと思った。
- 楽しかった。知らない人たちの中で意見を出すことは緊張したが、他の人がこういうことを考えているということを聞いたのは新鮮だった。時間は少しシビアだった。
- 積極的にみんなが意見を出していたので、全体での雰囲気も良いものだったと思います。
- とても楽しく、有意義な時間でした。
- すごく楽しかったです。いろんな人とお話ができた。3年生の人がめっちゃ引っ張ってくれた！すごい！

